

あわせて訪ねたい **城跡・館跡・寺院**



おかざき しroyama
岡崎の城山

わずか二つの曲輪からなる小さな城ですが、鉄砲や弓矢を効率的に当てるための折れのある堀と土塁が見られます。城主は地元武将の四ノ宮右近と伝承されていますが、馬伏塚城と共に高天神城攻略のための補給基地としての役割が考えられます。



じゅうにしよきょかん
十二所居館

発掘調査により南北130m東西85mの範囲で、堀と土塁が巡らされた中世寺院の姿が判明しました。寺の施設とは考えられない南側の堀中央に馬出状の出入口(虎口)が新たに造られ、馬伏塚城築城の最中臨時の徳川家康陣所になった可能性があります。



りゅうそういん
龍巢院

文明14年(1480)、太素省浄禅師により開山された曹洞宗の寺院です。小笠原氏興、信興、助昌の遠江小笠原氏の寄進状のほか、徳川家康家臣の大須賀康隆の寄進状が発給されており、馬伏塚城の歴代城主から手厚く遇されていた寺院です。



はつたさん
法多山

神亀2年(725)行基により開山されたと伝えられる真言宗の古刹です。今川氏親、氏輝、義元、氏真、豊臣秀吉の寺領安堵状のほか、小笠原信興の諸役免除状が発給されており、馬伏塚城主はもとより戦国大名や天下人からも一目置かれていた寺でした。



袋井の城・館・陣屋位置図

寺や個人が管理している場所もありますので、一言ことわってから訪ねてください。



参考図書 袋井市「目で見る袋井市史」2001年／浅羽町「図説浅羽町史」2001年／加藤理文・中井均編「静岡の山城ベスト50を歩く」2009年 サンライズ出版／袋井市・掛川市教育委員会「馬伏塚城と高天神城」2014年／加藤理文編「静岡県の歩ける城70選」2016年静岡新聞社

発行 **袋井市教育委員会**
〒437-1192 静岡県袋井市浅間1028番地(浅羽支所内)
TEL.0538-23-9264

市指定文化財

まむしづかじょう
馬伏塚城

見学案内パンフレット



小笠原氏興花押、小笠原与八郎氏助黒印、大須賀康隆花押です。

台風により水没した馬伏塚城の様子です。かつてはこのように水堀に囲まれていたと思われます。



見学のお願い

- 馬伏塚城は民地や個人の畑地が多いので、無断で立ち入らないでください。民地や畑の外側から見学するようにしてください。
- 崖や急斜面など危険な場所には近づかないでください。

袋井市教育委員会

城の歴史と構造

遠江小笠原氏ゆかりの平山城です。城域は了教寺北方の堀切から、南端の諏訪神社のある本曲輪にいたる広大な範囲となります。江戸時代中頃の絵図(古城之図)によると城の周囲は深田と記載され、戦国時代には沼地が広がり、天然の要害地に城が築かれていました。永禄12年(1569)頃、衰退した今川氏に代わり徳川家康が遠江の支配を進めると、小笠原氏も徳川家臣となりました。この時の城主は氏興といわれています。天正2年(1574)高天神城が武田勝頼の支配下に入ると、武田方となった小笠原氏に代わりすぐさま馬伏塚城は高天神城を攻めるための徳川方の前線基地として大改修されました。

馬伏塚城は南北600m、東西160mの規模で、湿地に突き出した標高5mの舌状台地の先端にあります。今は埋められていますが、幅10~15mの二本の大堀切により分断された伝居屋敷曲輪と北曲輪群、舟入曲輪より南は周囲を水堀に囲まれた南曲輪群からなります。発掘調査から南曲輪群は土塁に囲まれた防御性の高い曲輪群で、天正2年後徳川家康により墓地や寺院から城に改修されたことがわかりました。北曲輪群は二つの土塁に囲まれた曲輪があり、ここに天正2年以前の小笠原氏の居館があったと推定されます。伝居屋敷曲輪は最も広い曲輪で、天正2年以前の小笠原氏段階では集落、徳川氏段階では兵の駐屯地としての曲輪になったと思われます。



浅野文庫古城之図馬伏塚城(広島市立図書館蔵)

廃城後の江戸時代中頃の絵図ですが、城の周囲に水堀、近くに宮田池や岡崎村池などが描かれています。城が存続した時期には、これらの池と城の堀を結んだ水路があったと思われます。

さあ! 馬伏塚城を歩いてみよう!

見所1



本曲輪

本曲輪東側には大土塁が残り、北端の幅が広い土橋を見張る櫓台が推定されます。本曲輪西側の発掘調査から16世紀前~中葉は墓と礎石建物、16世紀後葉に土塁が造られ、徳川家康の南曲輪群の改修が確認されました。

見所2



羽城曲輪

本曲輪東・南側を取り囲む曲輪です。江戸時代の絵図(古城之図)には羽城と記載されており、城の端の曲輪と認識されていました。堀との比高差はあまりないため、水堀(水路)に面していた船着場と考えられます。

見所3



土橋

本曲輪北側の虎口(出入口)下で、発掘調査により確認された土橋です。本曲輪北側の内堀をまたぐ土橋で、地山を掘り残した構造です。幅2mに満たないことから、多数の兵士が一度に渡れないように工夫されています。

見所4



神曲輪

南曲輪群と北曲輪群を結ぶ、低い曲輪である神曲輪です。この曲輪も絵図によると周囲を土塁に囲まれ、東側には本曲輪の北面の馬出状曲輪と土橋により接続していました。



→ 見学路
P 駐車場

馬伏塚城案内図
(加藤理文氏作図 一部加筆後着色)

見所5



北一曲輪北土塁

北曲輪群の土塁は北側の残りがよい。16世紀前葉の小笠原氏居館では曲輪全周に土塁が巡り、現在の土塁は本曲輪に匹敵する規模であるため、16世紀後葉の徳川家康陣所のかさあげ改修があったと思われます。

見所6



北曲輪群北堀切

北曲輪群北側を防御するためのかなめの堀切です。自然の谷を利用し台地の狭い箇所堀切を設けましたが、現在は道路と宅地造成のために埋められ、遺構を見ることはできません。

見所7



了教寺

伝居屋敷曲輪の了教寺境内には、小笠原氏清(氏興)と家臣の竹田重右門の供養塔があります。天文11年(1542)に春茂より家督を譲られた氏清は、ほどなく徳川家康の家臣となり41才のとき馬伏塚城で没しました。

見所8



伝居屋敷曲輪北堀切

城の北側の最前線を防御するための重要な堀切であったと思われます。堀の一部は自然の谷を利用してあり、堀切部分は道路と宅地造成のために埋められ、現在遺構を見ることはできません。